

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七四五	延享2	7/16～	竹本座	夏祭浪花鑑	<p>第一 色の水上汲分た御鯛茶屋の塩竈(此、百合)、第二 殿の説意を巻込だおやま絵の拝領物(杣、紋)、第三 出入の数を爪操た珠数三昧の男作(錦)、第四 手代が恋を堀出た浮牡丹の箱入娘(政)、第五 道行いもせの走書(紋・ツレ 其、杣)、第六 男の意地を立ぬいた焼鉄の女房作(島)、第七 舅が欲を止兼た紅紋の宮入帷子(百合・政)、第八 友達に心を砕た石割雪踏の合印(此)、第九 親と子の縁を繋だ貫差の捕縄(錦、島)。</p> <p>※角書「団七九郎兵衛／釣船ノ三婦／一寸徳兵衛」。</p> <p>※語り「よみやのさはぎにありやしたよい／＼よい所へきたかたびらのほころびゑんもむすばぬりんきのしやらどけ／＼にはかのおもひつきはあけていわれぬかねとだなの上ふんべつうばがしらせにきたわいな」。</p> <p>※番付口上「口上／魚売団七高津祭宵宮長町裏にて舅を殺し候は四拾年以前の義に御座候是迄狂言には仕候へ共いまだ浄るりには仕らず候ゆへ始終の実説を承合此度新作に取組申候六月十一日の夜の義に候へば其時候の人形不残帷子単の衣装に仕何がな御慰と奉存御意に入候間御見物にもひとへに御出奉待願候以上」。</p> <p>※「夏祭浪花鑑 九冊物／是、当芝居はじまりてより、世話もの九段続のはじめ也、比しも暑氣の氣をとり、四ツ目より八ツ目迄、始て人形衣裳帷子を着せたり、是三代前吉田文三郎趣向にて、七冊目長町裏の段、本どろにて、人形水をかくる事を思ひ付しは、吉田文三郎なり、此人、あやつりにかけては、人形を持出れば人の如く、右狂言にては、役団七九郎兵衛、一寸女房おたつを使ひ、おたつ姿は、今に歌舞妓にても、桔梗の帷子、黒縹子の前帯、浅黄のわたぼふしより外を着れば、おたつのやうに見えぬもふしぎ(中略)。操り段々流行して、歌舞妓は無が如し、芝居表は、数百本ののぼり、進物等数をしらず、東豊竹、西竹本と、相撲の如く東西に別れ、町中、近国ひいきをなし、操りのはんじやういはんかたなし(『浄瑠璃譜』)。</p> <p>※『浄瑠璃譜』掲載の役割に異同があるので次に挙げる。壱冊目(此、百合、杣、其)、二冊目(紋)、三冊目(錦)、四冊目(政)、五冊目(道行紋・杣、跡 百合)、六冊目(島)、七冊目(かけ合 政・錦)、八冊目(此)、九冊目(島、跡 杣)。</p> <p>※なお、『近世邦楽年表 義太夫節之部』は『浄瑠璃譜』によるとしながら七冊目を島太夫、錦太夫とする。第七の掛合は、横山正蔵山本九葉亭他五軒版七行本には、錦(義平次)・政(団七)、内山美樹子蔵奥欠七行本には、百合(義平次)・政(団七)。(『義太夫年表 近世篇』)。</p>	<p>けいせい琴浦(新三郎)、玉島磯之丞(門三郎)、女ぼうおかし(伊平次)、一寸徳兵衛(才治)、団七九郎兵衛(文三郎)、釣船ノ三ぶ(七郎次)、手代伝八(助十郎)、娘お中(源介)、しうと義平次(門三郎)、女ぼうおたつ(文三郎)、女ぼうおつき(伊平次)。</p>

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一七四五	延享2	12/5～	京 四条北側大芝居 竹本座	夏祭浪花鑑 続九場	第一 色の水上汲分た御鯛茶屋の塩竈(此、百合)、第二 殿の説意を巻込たおやま絵の拝領もの(音羽、紋)、第三 出入の数を爪ぐつた珠数三昧の男作(錦)、第四 手代が恋を堀出した浮ぼたんの箱入娘(政)、第五 道行いもせのはしりがき(紋、音羽、錦)、第六 男の意地を立ぬいた焼鉄の女房作(島)、第七 舅が欲をやめかねた紅紋の宮入帷子(百合、政)、第八 友達に心を砕た石割せつたの合印(此)、第九 親と子の縁をつないだ貫ざしの捕縄(錦、島)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣船三婦／一寸徳兵衛」。 ※語り「付りよみやのさはぎにありやしたよい／＼よいところへきた／かたびらのほころびゑんもむすばぬりんきのしやらどけ／井にはかのおもひつきはあけていはれぬかねとだなの／じやうふんべつうばかしらせにきたわいな」。	けいせいことうら(新三郎)、たましまいそのぜう(門三郎)、女ぼうおかち(伊平次)、一寸とく兵衛(才次)、たん七九郎兵衛(文三郎)、つりふねの三ぶ(助三郎)、手代でん八(源十郎)、むすめおなか(げんすけ)、道具や孫右衛門(千ぞう)、しうと義平次(門三郎)、女ぼうおたつ(文三郎)。	
△	一七四六	延享3	初春	江戸 外記座	夏祭	初ノ中(奥)、初ノ切(沢)、初(七)、二ノ口(奥)、二ノ切(増)、三ノ口(時)、三(七)、四 道具屋ノ口(重)、四(彦)、五 道行(ツレ 増、次重)、六ノ切(時)、六ノ奥(増)、七(団七一沢・舅一重)、八(七)。 ※『音曲猿口轡』に拠る。	磯之丞(友五郎)、団七女房(文四郎)、八段目徳兵衛(兵蔵)、団七(幸五郎)、駒舟(幸十郎)、でん八(弥四郎)、道具屋娘(勘四郎)、義平次(兵蔵)、一寸女房(勘四郎)。
△	一七四六	延享3	初春	江戸 若松座	夏祭	住吉(井筒、品)、四 道具やの段(口 井筒、要)、五 道行(次 河内)、六 焼鉄の場(熊)、七(団七一井筒・舅一品)、八(熊、要)、八 やね(品)、九(江戸 若)。 ※『音曲猿口轡』に拠る。	磯之丞(小八郎)、団七女房(音五郎)、一寸徳兵衛(国三郎)、団七(新十郎)、釣舟(京四郎)、伝八(文次郎)、道具屋娘お中(藤五郎)、三川や義平次(重三郎)、一寸女房お辰(藤五郎)。
	一七五五	宝暦5	7/16～	竹本座	庭涼操座舗	団七祭の段(政・錦)。 ※寄せ物浄瑠璃の内。	だん七(文吾)、義平次(彦三郎)。
	一七五七	宝暦7	7/15～	京 竹本座	夏祭浪花鑑 九段続	第一 お鯛茶やの段(土佐、富)、第二 屋舗のだん(友)、第三 住吉の段(桐)、第四 道具やの段(土佐、春)、第五 道行(友・ツレ 住、奥元)、第六 俄の段(春)、第七 舅殺の段(土佐、桐)、第八 団七内の段(岡)、第九 玉島の段(元)。 ※角書「魚屋団七／釣船三婦／一寸徳兵衛」。 ※語り「附りよみやのさわぎにありやしたよい／＼よい所へきたかたびら綻縁も結ぬりんきのしやらどけ／井二俄のおもひつきはあけていわれぬ金とだんなのじやうふんべつうばがしらせにきたわいな」。	けいせい琴浦(助三郎)、玉島磯之丞・手代清七(与八)、団七女房おかち(助三郎)、一寸徳兵衛(勘十郎)、魚売団七(才治)、釣り船三婦(源十郎)、手代伝八(源十郎)、娘お中(庫十郎)、道具や孫右衛門(藤四郎)、舅義平治(十五郎)、徳兵衛女房おたつ(庫十郎)。
△	一七六三	宝暦13	6	江戸 土佐座	夏祭り	どふぐや(春)、ハツめ(岡)。 ※『義太夫執心録』に拠る。	
	一七六五	明和2	6中旬～	竹本座	御祭礼棚閣 車操	高津 夏まつり 焼がねの段(春)。 ※「六月十五日初日、御祭礼棚閣車操。是大坂宮々の祭を浄瑠璃の寄物になし」(『浄瑠璃譜』)。	ことうら(幸助)、いそのぜう(扇次郎)、一寸徳兵へ(才治)、だん七九郎兵へ(冠蔵)、つり舟三ぶ(三右衛門)、しうと義平次(九十郎)、女房おたつ(文三郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七六七	明和4	6	竹本座	夏祭浪花鑑 続九場	小田居茶屋の段(組、倉)、屋敷の段(彦、綱)、住吉の段(住)、道具屋の段(和佐、染、道行 鐘・ツレ 倉、跡 咲)、やきがねの段(島)、長町の段(綱、咲)、田島町の段(住、鐘)、備中玉島の段(組、島、梅)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣船三ぶ／一寸徳兵衛」。	けいせい琴浦(文十郎)、玉島いその丞・手代清七(才治)、団七女房お梶(小八)、一寸徳兵衛(冠蔵)、団七九郎兵衛(文三郎)、釣船の三ぶ(三右衛門)、手代伝八(七郎治)、娘お中(八十八)、道具や孫右衛門(小平次)、三かはや義平次(右蔵)、徳兵衛女房おたつ(文三郎)。
一七七二	明和9	6/24~	竹田栄蔵座	夏祭浪花鑑	六つ目(由、加)、七つ目(倉、咲)。	ことうら(鬼市)、磯のぜう(乙蔵)、一寸徳兵衛(乙五郎)、だん七九郎兵へ(冠次)、つりふね三婦(小五郎)、みかはや義平次(市郎兵衛)、おたつ(磯五郎)。
△ 一七七六	安永5	春	江戸肥前座	夏祭り	焼かねの段(氏)。 ※『義太夫執心録』に拠る。	
一七九八	寛政10	8以前/13	江戸土佐座	夏祭浪花鑑	ハツ目(氏)。	
一八〇〇	寛政12	5/28~	道頓堀大西芝居	夏祭浪花鑑 三つ目より 八つ目まで	住よしのだん(文口、米花、和田)、道具屋のだん(鬼勇、大二)、三ぶ内のだん(今五)、長町うらのだん(かけ合 スケ 矢慶・今五)、団七内のだん(文楽、大九)。	ことうら(林十郎)、いそ之丞(冠三)、おかち(勢蔵)、一寸徳兵へ(冠三)、団七九郎兵へ(岩五郎)、つりふね三ぶ(源吾)、伝八(鬼市)、おなか(勢蔵)、孫ざへもん(重市)、義平治(勘十郎)、一寸女房おたつ(磯五郎)。
一八二二	文政5	6 6/11~	京 四条北側東芝居	夏祭浪花鑑 夏まつり浪 花鑑	三ぶ内の段(口 生駒、切 内匠)、長まちうらの段(かけ合 弥・絹)、団七内の段(綱)、玉しま天神の段(常、橋)。 三ぶ内のだん(内匠、紋)、長町うらの段(かけ合 弥・絹)、団七内のだん(綱)、玉しま天神社の段(かけ合 常・橋・弦)。※前項興行の別番付に拠る。役割に大幅な異同があるため記載する(『義太夫年表 近世篇』に拠る)。	けいせい琴浦(国八)、磯之丞(源十郎)、おかち(国八)、一寸十九兵へ(金四)、団七九郎兵へ(兵吉)、つりふね三ぶ(冠四)、三河や義平治(千四)、おたつ(磯五郎)。 琴うら(国八)、いその丞(千助)、おかち(国八)、一寸十九兵へ(金四)、団七九郎兵へ(兵吉)、釣ふねの三ぶ(冠四)、義平治(千四)、おたつ(磯五郎)。
一八二六	文政9	5/13~	いなり社内	夏祭浪花鑑 地車九番	大序(綱)、第壹 御鯛茶屋のだん(中子、照、友、美咲)、第貳 泉州屋敷のだん(口 多見、中 橋、切 入)、第三 住よし松原の段(口 政子、おく 佐賀)、第四 内本町道具屋のだん(口 阿蘇、中 湊、切 染)、第五 安居天神坂ノ段(文字)、第六 三ぶ内の段(湊、跡 政子)、第七 長町裏の段(染)、第八 団七内の段(綱)、大切 捕ものゝだん(跡 かけ合 入・阿蘇・政子・美咲)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸得兵衛」。	けいせい琴浦(虎象)、玉島磯之丞(熊造)、団七女房おかち(辰五郎)、一寸得兵衛(熊造)、団七九郎兵衛(兵吉)、釣船三ぶ(弥三郎)、手代伝八(千助)、娘おなか(辰造)、道具や孫右衛門(辰助)、義平治(千四)、得兵へ女房おたつ(辰五郎)。
一八二六	文政9	5/15~	稲荷社内	夏祭浪花鑑 続九冊物	※前項興行と太夫・人形共役割は同じ。番付も版木を流用している(『義太夫年表 近世篇』)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸得兵衛」。 ※語り「よみやのさはぎにありやしたよい／＼よい所へきたかたびらのほころびゑんもむすばぬりんきのしやらどけ太夫がしらせにきたはいな／にはかのおもひつきは大尽の手代奉公色で心はうき牡丹の香炉は賈侍あけて云れぬ金戸棚の上ふんへつ乳母がしらせにきたはいな」。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三〇	文政13	5	北ほり江市の側芝居	夏祭浪花鑑 大序より 八つ目迄	御鯛茶屋のだん(口 当賀、次 和佐)、泉州やしきの段(口 雛、次 道、切 手羽)、住よし松原のだん(口 当賀、切 綾)、内本町のだん(口 雛、中 和佐、切 氏)、安井天神のだん(道)、三ぶ内の段(時)、長町裏のだん(かけ合 手羽・綾)、団七内の段(組)、裏道のだん(当賀)。 ※次項の興行と、日付も外題も同じもので、この番付の版木を流用したのと考えられる。次項興行の番付に改刻が認められるので、そちらの方が後のものであろう。よって、この興行は実際に行われたかどうかは明らかでない(『義太夫年表 近世篇』に拠る)。	けいせい琴浦(東三)、玉しま磯之丞(新四)、団七女房お梶(国八)、一寸徳兵へ(弥三郎)、団七九郎兵へ(門蔵)、釣舟の三ぶ(千四)、舅儀平二(千四)、手代伝八(東十郎)、娘お仲(国八)、道具や孫右衛門(勢造)、徳兵へ女房お辰(東十郎)。
一八三〇	文政13	5	北ノしん地芝居	夏祭浪花鑑	御鯛茶屋のだん(口 次 当賀)、泉州やしきの段(口 当野、次 道、切 綾)、住よし松原のだん(口 当賀、切 手羽)、内本町のだん(口 当野、中 和佐、切 氏)、安井天神のだん(道)、三ぶ内の段(時)、長町裏のだん(かけ合 手羽・綾)、団七内の段(組)、裏道のだん(当賀)。	けいせい琴浦(東三)、玉しま磯之丞(新四)、団七女房お梶(国八)、一寸徳兵へ(弥三郎)、団七九郎兵へ(門蔵)、釣舟の三ぶ(千四)、舅儀平二(千四)、手代伝八(東十郎)、娘お仲(国八)、道具や孫右衛門(勢造)、徳兵へ女房お辰(東十郎)。
一八三〇	文政13	6/12~	名古屋清寿院御境内芝居	夏祭浪花鑑	三ぶ内のだん(口 家、切 長門)、長町浦のだん(カケ合 谷・長門)、団七九郎兵へ住家のだん(綱)。 ※『見世物雑誌』には「六月十三日より七夕きり」として次の如く記事あり。「夏祭長町浦のだんにて、泥のたて有り。見物場い・ろ・は・に三枚通十二枚斗りの処どろ沼になし、吉田与吉一寸徳兵衛にてつかひながら、泥に落ちどろじあいあり」。	琴浦(喜代松)、磯之丞(亀吉)、九郎兵へ女房お梶(三吾)、一寸徳兵へ(与吉)、団七九郎兵へ(金四)、釣舟三ぶ(清七)、儀平治(与吉)、一寸女房お辰(三吾)。
一八三六	天保7	5/3~	いなり境内	夏祭浪花鑑 地車十番	御鯛茶やのだん(鶴、辰)、泉州屋敷のだん(口 巴満、切 綾)、住吉松原のだん(口 さと、おく 長門)、内本町のだん(口 寿、岡、切 綱)、天神坂のだん(三根)、三ぶ内のだん(口 さと、切 長門)、長町裏のだん(かけ合 岡・綾、団七九郎兵へ 吉田金四／三河や義平次 桐竹門蔵／右兩人出づかひにて相つとめ申候)、団七内のだん(綱)、舞子浜のだん(寿)、玉島のだん(中 綾、切 勢イ見)。 ※角書「世話人 団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸徳兵衛」。 ※「長町裏のだん」の役割を、豊竹綾太夫と竹本寿太夫のかけ合とする別番付もある。	ことうら(猪三郎)、玉しま磯之丞・道具や清七(門三)、おかぢ(辰五良)、一寸徳兵へ(徳蔵)、団七九郎兵衛(金四)、釣船ノ三ぶ(門蔵)、手代伝八(徳蔵)、娘お仲(猪三郎)、孫右衛門(源吾)、三河や義平次(門蔵)、おたつ(辰五良)。
一八三九	天保10	5	東竹田芝居	夏祭浪花鑑 地車三番	道具やの段(小松、三根)、安井のだん(越)、三ぶ内の段(綾、靱)、長町裏の段(咲、靱、団七九郎兵へ 吉田金四／義平次 桐竹門蔵／右出づかひにて相つとめ申候)、団七内の段(長門、登茂)。	ことうら(国五郎)、磯之丞(金之介)、おかぢ(国八)、一寸徳兵へ(東十郎)、団七九郎兵へ(金四)、釣ふねノ三ぶ(門蔵)、番頭伝八(金三)、娘お仲(東十郎)、道具や権右衛門(朝右衛門)、義平次(門蔵)、おたつ(国八)。
一八四〇	天保11	6	京四条道場芝居	夏祭浪花鑑	長町浦の段(はる、氏戸)、団七内の段(綱)。	おかぢ(辰五郎)、一寸徳兵衛(辰造)、九良兵衛(兵吉)、釣舟の三婦(国五郎)、三河や義平次(国五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四一	天保12	5/19～	座摩社内西芝居	夏祭浪花鑑 地車八番	御鯛茶やの段(元、泉)、屋敷の段(辰、三代、梅)、住よしの段(富、佐賀)、道具やの段(八百、琴)、天神坂の段(梅)、釣舟内の段(中)、長町裏の段(かけ合 佐賀・琴、団七九郎兵へ／三河や義平次 吉田虎造／右二やく人形出遣ひ二而相勤め申候)、団七内の段(若、跡 かけ合)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸徳兵衛」。 ※語り「よみやのさはぎにありやししたよい／よい所へきたかたびらのほころび縁も結ばぬりんきのしやらどけ太夫がしらせ二きたはいな／にはかの思ひつきは大尽の手代奉公色で心はうき牡丹の香炉は賈侍あけて云れぬ金戸棚の上ふんべつ乳母がしらせ二きたはいな」。 ※「御鯛茶やの段」の竹本泉太夫を竹本百合太夫とする別番付がある。	けいせい琴浦(咲造)、玉しま磯之丞・手代清七(小助)、九郎兵へ女房お梶(清十郎)、一寸ノ徳兵へ(咲造)、団七九郎兵へ(虎造)、釣舟三ぶ(一暁)、手代伝八(清十郎)、娘お仲(重八)、道具や孫右衛門(文五郎)、三河や義平次(虎造)、徳兵へ女房お辰(重八)。	
一八四二	天保13	4/28～	稲荷社内東芝居	夏祭浪花鑑 地車八番	御鯛茶屋の段(小、初、弘、律、登代)、泉州やしきの段(口 真島、中 喜代、切 越)、住吉松原の段(口 登茂、おく 文)、道具屋の段(口 喜代、中 錦木、切 音羽)、天神坂の段(口 文字)、三ふ内の段(中 小松、切 勢見)、長町うらの段(かけ合 音羽・錦木)、団七内ノ段(切 綱)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸徳兵衛」。 ※語り「○御鯛亭の遊興は恋の柔 ○浜田の屋敷は謎の給 ○住吉の口論は胸の試 ○道具屋の仇枕は恨の刃／○安居の計略は欲の違 ○焼金の証拠は実の心 ○長町裏の無理は命の基 ○相印の雪踏は我身の仇」。 ※「道具やの段・中」を竹本文太夫、「天神坂の段・口」を竹本喜代太夫、「長町うらの段」の竹本錦木太夫を竹本小松太夫とする別番付がある。	けいせい琴浦(咲造)、玉しま磯之丞(新五郎)、九郎兵へ女房お梶(辰五郎)、一寸徳兵へ(喜十郎)、団七九郎兵へ(金四)、釣舟三ぶ(徳造)、手代伝八(金三)、娘お仲(咲造)、道具や孫右衛門(文五郎)、三河や義平次(徳造)、徳兵へ女房おたつ(辰五郎)。	
一八四三	天保14	4	名古屋 若宮操り芝居	夏祭浪花鑑	長町裏の段(カケ合 むら・咲)、団七住家の段(切 綱)。	女房おかじ(重八)、一寸徳兵へ(冠十郎)、団七九郎兵へ(清七)、釣舟の三ふ(与吉)、三河屋義平二(三之助)。	
一八四三	天保14	8	京 四条北側芝居	夏祭浪花鑑	団七内の段(綱、跡 真島)。	女房おかじ(清十郎)、一寸徳兵へ(門十郎)、団七ノ九郎兵へ(門蔵)、釣舟ノ三ふ(一暁事 才次)。	
△	一八四五	弘化2	4頃	四つ橋南へ入浜	夏祭	※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四六	弘化3	5/9～	京 左女牛北側芝居	夏祭	六(登世)。	
△	一八四七	弘化4	夏	西横堀清水町浜	夏祭浪花鑑	住吉の段(梶さ)、道具屋の段(春戸、文)、三婦内の段(咲)、長町裏(カケ合 義平一梶・九郎兵衛一咲)、九郎兵衛内の段(梶)、玉島の段(春戸、文)。 ※素浄瑠璃。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四八	弘化5	2/22～	名古屋 清寿院境内	夏祭	焼鉄之段(三国=米作)。 ※子供浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△ 一八四九	嘉永2	10前半頃	伊予松山城下五穀神境内	夏祭	六ツ目。 ※素浄瑠璃。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八五〇	嘉永3	8/15～	文楽小家	夏祭	六つ目(二見=梅吉)。	
一八五四	嘉永7	6/5～14	天神新門角	夏祭浪花鑑	浜田屋裏之段(鹿=増次良、音の=絹まつ、千賀=団十良)、住吉のだん(津磨=絹まつ、三国=竜八、富司=燕二)、道具屋のだん(カケ合 千賀・三国・津磨・音の・森・理=新次良)、天神坂のだん(多満=源吉)、釣舟三ぶ内のだん(理、長尾=団平)、長町うらのだん(カケ合 長尾・多満=源吉)、団七内のだん(長登=清七)。	
一八五五	安政2	5/6～	築地清水町浜	夏祭浪花鑑 地車十一番	御鯛茶屋のだん(美尾、芳、三津、喜志、曾根)、泉州屋敷の段(口 巴津、中 久、切 むら)、住吉松原のだん(口 秀、おく 勇)、内本町のだん(中 和国、次 佐賀、切 弥)、天神坂のだん(田喜)、三ぶ内の段(中 久、切 田組)、長町裏のたん(カケ合 湊・弥)、団七内の段(切 巴、跡 当勢)、牢屋敷のだん(口 音賀、おく 勇)、玉島之だん(中 町、次 佐賀、切 湊)。 ※角書「団七九良兵衛ノ釣舟ノ三ぶノ一寸徳兵衛」。	
一八五八	安政5	5/5～	京 四条道場北小家	夏祭	玉しまの段(巴代=庄吉)。 ※かけゑ浄瑠璃。	
一八五九	安政6	4/20～	稲荷社内東芝居	夏祭浪花鑑 大序ヨリ 八つ目迄	御鯛茶屋のだん(和、岩戸、勝見、千鳥)、泉州屋敷の段(口 喜志、中 氏、切 むら)、住吉松原の段(口 実、おく 当久)、内本町のだん(中 和国、次 多喜、切 咲)、天神坂のだん(氏)、三ぶ内のだん(中 佐賀、切 湊)、長町裏のたん(九郎兵へー春・義平次一多満)、団七内のたん(切 染、跡 百合)。 ※角書「団七九良兵衛ノ釣舟ノ三ぶノ一寸徳兵衛」。	傾城琴浦(兵花)、玉島磯之丞(新五郎)、女房お梶(兵吉)、一寸徳兵衛(玉造)、団七九郎兵衛(才治)、釣舟ノ三ぶ(文三)、手代伝八(清七)、娘お仲(兵花)、道具や孫右衛門(才三郎)、三河や儀平次(玉造)、一寸女房お辰(兵吉)。
一八六五	慶応1	6/20～	京 四条道場北ノ小家	夏祭	玉島ノだん(淀=三根造)。	
一八六七	慶応3	5上旬～	名古屋 清寿院御境内	夏祭	九郎兵衛内のたん(小土佐、土佐=寛璃)。	おかじ(清十郎)、一寸徳兵へ(歌録)、団七九郎兵へ(金四)、釣り船三ぶ(才治)。
一八六八	慶応4	5/5～	京 四条道場北ノ小家	夏祭浪花鑑 全部八冊	お鯛茶や之段(豊=虎次郎、直吉)、泉州やしきのだん(口 須磨=鱗吾、切 和石軒=団六)、住吉松原のだん(口 蔦=小兵、奥 春栄=弥市)、内本町道具やのだん(口 須磨=鱗吾、中 津=小兵、切 三光齋=伊達蔵)、釣舟三ぶ内の段(口 春戸=常吉、切 長尾=鱗糸)、長町裏ノ段(浜=豊吉)、団七九郎兵へ内の段(切 対馬=吉弥、跡 春栄=弥市)、一寸徳兵へ内の段(口 紋=時造、切 津賀=豊吉)。 ※角書「一寸徳兵衛ノ釣舟三ぶノ団七九郎兵衛」。	
一九六九	明治2	7/14～	京都 和泉式部芝居	夏祭	九郎兵衛住家(御目見江浄るり東京上り 戸佐=吉左衛門)。	

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七〇	明治3	5	いなり東芝居	夏祭浪花鑑 大序より 八ツ目まで	御鯛茶やのだん(梅、春尾、戸羽、亀久、春馬、柎)、泉州やしきの段(口 豊、中 左馬、次 音羽、切 中)、住よし松原の段(口 春戸、奥 実)、内本町のだん(中 染子、次 住、切 越)、天神坂のだん(三根)、三ぶ内の段(中 浪、切 咲)、長町うらの段(義平次一実・団七一住)、団七内のだん(切 湊、跡 音羽)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三ぶ／一寸徳兵衛」。 ※「五月廿二日ヨリ廿五日間興行」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※四代竹本越太夫、文楽初出座(『木谷蓬吟遺稿』)。	けいせい琴浦(玉助)、玉嶋磯之丞(玉宗)、女房お梶(辰造)、一寸徳兵へ(辰之助)、団七九郎兵へ(玉造)、釣舟三ぶ(喜十郎)、手代伝八(光造)、むすめお仲(小玉)、孫右工門(為十郎)、三河や義兵へ(玉之助)、女房お辰(鹿造)。
一八七〇	明治3	8	天満芝居	夏祭浪花鑑	釣舟三婦内の段(鞞、春栄)、九郎兵衛内のだん(戸佐)。 ※コノ原番付ハ再調査不能ノ事情ニアルタメ、文字其他ノ細部ニ疑問ヲ残ス(『義太夫年表 明治篇』)。	けいせい琴くら(清次郎)、玉嶋磯之丞(清七)、女房お梶(清十郎)、一寸徳兵へ(歌録)、団七九郎兵へ(金四)、釣舟の三ぶ(万二)、三河や義平次(新七)、女房お辰(歌録)。
一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	夏祭	九(紋=庄次郎)。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七五	明治8	7/1~	京都 和泉式部演劇	夏祭浪花鑑 大序ヨリ 八段目マデ	和泉やしきの段(三輪=玉助)、住よしの段(緑=福三郎)、道具やの段(三輪=玉助)、三ぶ内ノ段(生熊=音吉)、長町泥場ノ段(緑=福三郎)、九郎兵衛内の段(筆=友五郎)。 ※浄瑠璃身振り。	
一八七五	明治8	7/1~	名古屋 亀の家座	夏祭	一寸徳兵衛内ノ段(紋=庄次郎)。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七六	明治9	9	大江ばし席	夏祭浪花鑑 大序より 九つ目迄	お鯛茶やのだん(嶋子、巴江、路久、巴代、田手、浜路、鶴、織部、左馬、国、鑊)、兵太夫やしきの段(口 織門、中 田古、切 春戸)、住吉松原のだん(口 曾我、中 小浜、奥 豊)、道具やのだん(口 鞞栄、中 仮名、跡 呂、切 嶋)、天神坂の段(山四郎)、三ぶ内のだん(切 浜、跡 十三)、長町うらの段(九郎兵へ一嶋・義平治一新鞞、此所出つかひにて奉御覧入候)、九郎兵衛住家の段(切 織改 綱、跡 長枝)、玉嶋のだん(口 鞞登、中 頼、切 古鞞)。 ※角書「団七九良兵衛／釣舟三ぶ／一寸徳兵衛」。 ※二代織太夫改メ六代竹本綱太夫改名披露。	玉嶋磯之丞・手代清七(友造)、けいせい琴浦(小為)、女房お梶(冠四)、一寸徳兵へ(兵造)、団七九郎兵へ(辰五郎)、釣舟三ぶ(喜十郎)、手代伝八(小光)、娘お仲(庄造)、孫右工門(才枝)、三河や義平二(玉枝)、女房おたつ(鹿造)。
一九七七	明治10	2/13~	弁天座	(夏祭浪花鑑)	九郎兵衛住家(鞞登)。 ※「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	9/1~(番付には吉日よりと)	東京 愛宕町式丁目 芝居	夏祭浪花鑑 大序より 八冊まで	大序(う綱・富江)、住吉の段(口 常、次 芳)、道具屋の段(中 巴代、切 勝)、天神山の段(渚)、三ぶ内のだん(切 岡、跡 巴代)、長町裏の段(カケ合 豊嶋・渚=勝助)、団七内のだん(田組)。	琴うら(国松)、磯之丞(伊十郎)、女房おかじ(冠二)、一寸徳兵へ(冠二)、団七九郎兵衛(文三郎)、釣舟三ぶ(新七)、番頭伝八(文三郎)、道具や娘(才二)、義平治(冠二)、おたつ(才二)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八三	明治16	7	日本橋北詰 沢の席	夏祭浪花鑑	三婦内のだん(口 千駒、切 仮名、跡 山登)、長町うらのだん(九郎兵へー源・義平次一町、此所人形出遣ひにて御覧に入申候)、田嶋町のだん(切 組)、捕手のだん(照、町、此所人形惣出つかひにて御覧に入申候)。 ※角書「団七九郎兵へ／釣舟三婦／一寸徳兵衛」。 ※「廿一日ヨリ十三日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	けいせい琴浦(喜市)、玉嶋磯之丞(梅若)、女房おかぢ(小辰造)、一寸徳兵へ(駒十郎)、団七九郎兵へ(辰五郎)、釣舟の三婦(東十郎)、三河や義平次(永寿)、女房お辰(小辰造)。
一八八五	明治18	7/1~	彦六座	夏祭浪花鑑 大序より 八つ目まで	大序(隅子、富司登、組尾、真喜、勇、鹿、源氏)、御鯛茶やのだん(組路、登勢)、兵太夫やしきのだん(口 組子、中 信、切 町)、住吉のだん(口 組代、奥 隅栄)、内本町道具やのだん(口 津代、中 若靱、切 富司)、天神坂のだん(山登)、三婦内のだん(中 田喜、切 越=*吉三郎)、長町裏のだん(九郎兵へー住・義平次一組、此所出つかひにて御覧に入候 吉田才治、吉田辰五郎)、田嶋町のだん(切 大隅、跡 芳)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣舟三婦／一寸徳兵衛」。 ※「七月一日ヨリ廿一日マデ、但シ初日ヨリ出水デ休ミ、九日ヨリハジマル」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「はじめての昼夜二部興行」(『道八芸談』)。「『泥仕合』が住さんの団七に組さんの義平次の掛合で「舅殺し」の間のメリヤスを清水町の師匠(編注・二代豊沢団平)が作曲されました。いかにも向うに祭礼の行列行くような実に結構な手がついていました」(『道八芸談』)。	けいせい琴浦(小三)、玉しま磯之丞・手代清七(玉松)、九郎兵へ女房お勝(三吾)、一寸徳兵衛(亀松)、団七九郎兵へ(辰五郎)、釣舟三婦(才治)、番頭伝八(栄造)、むすめお仲(松江)、孫右衛門(栗造)、舅義平次(兵吉)、徳兵へ女房お辰(門造)。
一八八七	明治20	7/1~	彦六座	夏祭浪花鑑 上下	三婦内の段(此、此所出つかひにて御覧に入申候)、長町裏の段(生嶋、七五三)。 ※角書「団七九郎兵へ／釣舟三婦／一寸徳兵へ」。 ※「七月一日ヨリ十七日マデ十七日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	琴うら(東十郎)、磯之丞(小三)、徳兵衛(玉松)、団七九郎兵へ(亀松)、三婦(兵吉)、儀平次(門造)、女房おたつ(三吾)。
△ 一八八八	明治21	8/7	名古屋 千歳座	浪花鑑	天王寺村(津=広助)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八八九	明治22	6/1~	彦六座	夏祭浪花鑑 住吉より 田嶋町まで	住吉のだん(山登)、内本町道具やのだん(住次、源)、天神坂のだん(田喜)、三婦内の段(住路、朝=*吉三郎)、長町裏のだん(義平次一七五三・九郎兵へー此、此所出つかひにて御覧に入申候)、田嶋町のだん(組=松太郎、此所惣出つかひにて御覧に入候)、家根のだん(源枝)。 ※角書「団七九郎兵へ／釣舟三婦／一寸徳兵へ」。	琴浦(小三)、玉しま磯之丞(亀登)、女房お勝(鹿造)、一寸徳兵衛(亀松)、団七九郎兵衛(辰五郎)、釣舟の三婦(光造)、手代伝八(玉米)、むすめお仲(玉松)、三河や義平次(兵吉)、女房お辰(三吾)。
△ 一八九〇	明治23	3/23	京都 南劇場	夏祭	三ぶ内(此=仙治郎)。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△ 一八九〇	明治23	4/24	名古屋 千歳座	夏祭り	三夫の内の段(此)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九一	明治24	6	御霊文楽座	夏祭浪花鑑 大序より 八つ目迄	大序 御鯛茶やのだん(津尾、相寿、呂嘉、谷路、鶴尾)、浜辺のだん(越戸、呂瀬、品尾、津和、巴勢)、泉州やしきの段(久、調)、白洲のだん(高尾、氏)、住吉松原の段(小長、さの)、内本町道具やの段(文、綾、路)、天神坂の段(谷)、三婦内のだん(中むら、切呂)、長町うらのだん(儀平次一路・団七一谷)、団七住家の段(切津=吉兵衛)。 ※角書「団七九良兵衛／釣舟三婦／一寸徳兵衛」。 ※「六月廿日ヨリ七月十日マデ十九日間」(『文楽興行書入手帖』)。 「六月廿日ヨリ廿一日間」(『竹本撰津大掾』)。「六月廿一日ヨリ」(『文楽今昔譚』)。	けいせい琴浦(紋治郎)、玉嶋磯之丞(卯三郎)、女房お梶(玉助)、一寸徳兵衛(金之助)、団七九郎兵衛(玉造)、釣舟の三婦(玉治)、手代伝八(金之助)、娘お仲(玉亀)、道具や孫左工門(玉朝)、三河や義平次(紋十郎)、女房おたつ(玉助)。
△	一八九一	明治24	京都 北座	夏祭難波鑑	三ぶ内(呂)。	
		8/18				
		8/19			八ツ目(調)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	京都 南座	夏祭り	八ツ目(調)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九五	明治28	博労町いなり 北門 稻荷座	夏祭浪花鑑	天神坂のだん(長子)、三婦内のだん(口菅、切弥、跡弥生)。	琴浦(紋治郎)、磯之丞・手代清七(末造)、一寸徳兵へ(栄三)、団七九郎兵へ(駒十郎)、釣船三婦(玉松)、番頭伝八(鶴松)、娘お仲(三十郎)、三河屋儀平次(玉米)、女房お辰(清十郎)。
	一八九五	明治28	東京 新声館	夏祭浪花鑑 大序ヨリ 八ツ目迄 四幕	大序(織代、綾登)、住吉の段(織五、織栄=扇八)、三ぶ内の段(駒=団八、綾=豊市)、長町裏の段(団七一播尾・儀平治一鑑=八百造)、九郎兵衛内の段(識=丑之助、識与=広三)。	琴浦(三十郎)、玉嶋磯の丞(新造)、団七女房おかじ(伊三郎)、一寸徳兵衛(国三郎)、団七九郎兵衛(文吾)、釣船三ぶ(新五郎)、シウト儀平次(伊三郎)、徳兵衛女房おたつ(幸吉)。
△	一八九六	明治29	京都 南座	夏祭浪花鑑	三ぶ内(弥)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	名古屋 御園座	夏祭り	六つ目 三ぶ内(住=小団二)。 ※大阪大隈(ママ)太夫一座・東京朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇〇	明治33	明楽座	夏祭浪花鑑 三婦内より 長町裏迄	三婦内のだん(三婦一此・おたつ一伊達・なまこの一八菊・女房おつぎ一鑑・一寸徳兵へ一隅次・琴浦一弥雲・磯之丞一弥=王へんに玉)・こっばの権一隅尾・駕かき一此路)、長町裏のだん(九郎兵へ一雛・義平次一生嶋、此所人形惣出遣い二〇か一座出勤仕候)。 ※「三婦内で、幕開きに舟底を平舞台にして、当時大阪で有名俄師の団九郎、外二三人を呼んで来て、大手燭を持って出ると、内に並んで居る三婦やお次の人形から、「所望々々」といふ事になって、一くさり俄がありました」(『吉田栄三自伝』)。	けいせい琴浦(兵枝)、玉嶋磯之丞(友造)、一寸徳兵衛(光ル)、団七九郎兵衛(玉松)、釣舟の三婦(門造)、義平次(栄三)、女房おたつ(清十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇〇	明治33	12/11	名古屋 末広座	夏祭り 三ぶ内(住=小団二)。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇二	明治35	6	御霊文楽座	夏祭浪花鑑 続四冊 大序 鯛茶屋のだん(竹、千代、文字子、桂、広、須磨、いさ、都、南勢、津磨、津留、字久、越見、駒勢、越喜、小常)、浜座敷のだん(津国、津ばさ、谷登、谷代、越可、豊、登勢)、泉州屋敷の段(口 葉、奥山城)、白洲のだん(中 殿母、切 むら)、住吉松原の段(口 源子、奥文)、内本町道具屋の段(中 富、次 津ばめ、切 染)、天神坂のだん(南部)、三婦内のだん(中 叶、切 呂=*勝鳳)、長町裏畑の段(九郎兵へー南部・義平次一叶)、団七内のだん(切 津)。 ※角書「釣舟三婦／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。 ※「六月六日ヨリ七月二日マデ廿六日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	けいせい琴浦(玉六)、玉嶋磯之丞(玉治)、女房おかじ(助太郎)、一寸徳兵衛(玉助)、団七九郎兵衛(玉造)、釣舟三婦(多為蔵)、手代伝八(多為蔵)、娘お仲(玉六)、孫右工門(玉朝)、三河屋義平次(紋十郎)、女房おたつ(玉助)。
△	一九〇二	明治35	8/11	京都 南座	夏祭 三(呂)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	7/30	京都 歌舞伎座	(夏祭浪花鑑) 長町裏(南勢)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	6/20～	御霊文楽座	夏祭浪花鑑 つき四冊 大序 鯛茶屋のだん(津雲、南次、源路、南登、柴、富路、桐、文次、福、時尾、南芳、文字子、富子)、浜座敷のだん(喜、広、津留、須磨、染代、谷登、越可)、泉州屋敷のだん(口 津国、奥 其)、白洲のだん(中 越見、切 むら)、住吉松原のだん(口 鶴尾、奥 叶)、内本町道具屋のだん(中 淀、次 富、切 文)、天神坂のだん(源)、三ぶ内のだん(中 常子、切 七五三)、長町裏のだん(義平次一文・九郎兵へー源)、田嶋町のだん(切 染、跡 淀)。 ※角書「釣舟三ぶ／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。 ※「六月二十日ヨリ七月十四日マデ廿五日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	琴浦(琴糸)、玉嶋磯之丞・手代清七(三左衛門)、女房お梶(玉五郎)、一寸徳兵へ(玉治郎)、肴売九郎兵へ・団七九郎兵へ(栄三)、釣舟三ぶ(玉治)、番頭伝八(玉治)、娘お仲(玉六)、道具屋孫右工門(玉五郎)、三河屋義平次(紋十郎)、女房お辰(玉六)。
△	一九一一	明治44	9/1	京都 南座	夏祭 (南次)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/9	東京 新富座	(夏祭浪花鑑) 住吉(鶴尾)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/21	名古屋 御園座	夏祭 三婦内(常子改 八十)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12/10	東京 歌舞伎座	(夏祭浪花鑑) 三婦の内(八十=一弥)。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一八	大正7	8/4	京都 南座	夏祭 (八十)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二〇	大正9	7/23	名古屋御園座	夏祭り (八十)。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8/1~20	四ツ橋文楽座	夏祭浪花鑑 三ぶ内より 長町裏の段迄 三婦内の段(釣舟の三婦一和泉・九郎兵衛一長尾・一寸徳兵衛一富・おたつ一つばめ・女房お次一源路・磯之丞一さの・琴浦一長子・義平次一干駒・こつばの権一陸路・なまこの八一亀久=団六)、長町裏の段(九郎兵衛一つばめ・義平次一鏡=勝市)。	女郎琴浦(光之助)、玉島磯之丞(文作)、一寸徳兵衛(門造)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟の三婦(政亀)、舅義平次(玉松)、女房お辰(紋十郎)。
	一九三〇	昭和5	8/22~26	京都南座	夏祭浪花鑑 三ぶ内より 長町裏の段迄 三ぶ内の段(釣舟の三ぶ一和泉・九郎兵衛一富・一寸徳兵衛一干駒・おたつ一つばめ・女房お次一源路・磯之丞一常子改め さの・琴浦一長子・義平次一干駒・こつばの権一陸路・なまこの八一亀久=団六)、長町裏の段(九郎兵衛一つばめ・義平次一鏡=勝市)。 ※千種楽は「京都日出新聞」(8月25~26日)に拠る。	女郎琴浦(光之助)、玉島磯之丞(文作)、一寸徳兵衛(門造)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟の三婦(政亀)、舅義平次(玉松)、女房お辰(紋十郎)。
	一九三〇	昭和5	10/22~25	名古屋御園座	夏祭浪花鑑 三ぶ内の段(相生=猿系)、長町裏の段(九郎兵衛一つばめ・義平次一鏡=勝市)。	傾城琴浦(文作)、玉島磯之丞(光之助)、一寸徳兵衛(門造)、団七九郎兵衛(栄三)、釣船三ぶ(政亀)、舅儀平次(玉松)、徳兵衛女房お辰(紋十郎)。
	一九三一	昭和6	9/23~27	東京帝国劇場	夏祭浪花鑑 三婦内の段(和泉=歌助)、長町裏の段(義平次一島・九郎兵衛一つばめ=猿太郎)。	傾城琴浦(徳三郎)、玉島磯之丞(冠造)、一寸徳兵衛(瓢寿呂)、団七九郎兵衛(玉松)、釣舟三婦(小兵吉)、舅義平次(門造)、徳兵衛女房お辰(文作)。
△	一九三二	昭和7	8/3~4	京都京都座	夏祭浪花鑑 三婦内より 長町裏の段 三婦内の段(相生=清二郎)、長町裏の段(つばめ・呂=重造)。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日、8月2~3・5~7日)に拠る。	傾城琴浦(栄三郎)、玉島磯之丞(文之助)、女房お梶(紋太郎)、一寸徳兵衛(不明)、団七九郎兵衛(扇太郎)、釣舟三婦(玉市)、舅義兵次(玉幸)、女房おたつ(文作)。
△	一九三二	昭和7	8/13~14	名古屋御園座	夏祭浪花鑑 三婦内の段(相生=清二郎)、長町裏(呂・つばめ=綱右衛門)。 ※『御園座七十年史』、「新愛知」(8月9~13日)に拠る。	団七九郎兵衛(紋太郎)、儀平次(玉幸)。
	一九三四	昭和9	7/4~6	京都南座	夏祭浪花鑑 三ぶ内の段(呂=芳之助)、長町裏の段(団七九郎兵衛一つばめ・儀平次一鏡=団二郎)。	琴浦(紋太郎)、磯之丞(文之助)、一寸徳兵衛(玉市)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟の三ぶ(玉次郎)、儀平次(玉松)、女房お辰(扇太郎)。
	一九三四	昭和9	7/30~31	東京歌舞伎座	夏祭浪花鑑 三婦内の段(釣船三婦一和泉・団七九郎兵衛一相生・一寸徳兵衛一隅栄・女房お辰一南部・女房お次一小春・磯之丞一津磨・琴浦一宮・こつばの権一辰・なまの八一播路・義平次一呂=芳之助)、長町裏の段(団七九郎兵衛一相生・義平次一呂=叶)。 ※角書「釣舟三婦／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。	琴浦(紋太郎)、磯之丞(文之助)、一寸徳兵衛(玉市)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟三婦(門造)、舅義平次(玉松)、女房お辰(扇太郎)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三六	昭和11	7/3~12	四ツ橋文楽座	夏祭浪花鑑 三ぶ内より 田島町団七 内まで	三ぶ内の段(釣舟三ぶ一富／陸路・女房お辰一辰／播路・女房お次一 竹・磯之丞一津の子・琴浦一常子・団七九郎兵衛一和泉・一寸徳兵 衛一淀路・舅義平次一長尾・こっばの権一隅栄・なまこの八一駒若＝ 寛市／吉左)、長町裏の段(団七九郎兵衛一和泉・舅義平次一長尾＝友 造／友平)、田島町団七内の段(相生＝友造//呂＝叶、後 隅栄＝鶴太郎 //駒尾＝友駒)。 ※角書「釣舟の三ぶ／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。	傾城琴浦(栄三郎)、磯之丞(紋太郎)、女房おか ち(紋十郎)、一寸徳兵衛(玉幸)、団七九郎兵衛 (玉蔵)、釣舟の三ぶ(玉次郎)、舅義平次(門 造)、女房お辰(政亀)。
一九三八	昭和13	9/23~25	東京 明治座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(辰＝一郎右衛門//竹＝清友//宮＝広若、相生＝吉左//織＝ 喜代之助//伊達＝友衛門)、長町裏の段(団七九郎兵衛一呂・舅儀平 次一和泉＝叶)。 ※角書「釣舟の三婦／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。 ※筋書掲載の人形役割のうち、女房お梶(紋十郎)はお辰の誤りカ。	女郎琴浦(文之助)、磯之丞(紋司)、一寸徳兵衛 (玉蔵)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟の三婦(政 亀)、舅儀平次(門造)、女房お梶(紋十郎)。
一九四〇	昭和15	7/6~	四ツ橋文楽座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(釣舟の三婦一長尾／伊勢・女房お辰一源／文・女房お次一 雛・磯之丞一さの／常子／津磨・琴浦一宮／英／越名・団七九郎兵 衛一長尾／伊勢・一寸徳兵衛一富／千駒・舅義平次一隅若／駒若／松 島・こっばの権／なまの八一辰／播路＝八造)、長町裏の段(舅義平 次一文字・団七九郎兵衛一相生／織＝寛治郎)。 ※角書「釣舟の三婦／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。	傾城琴浦(紋司)、磯之丞(栄三郎)、一寸徳兵衛 (文二郎)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟の三婦 (政亀)、舅義平次(門造)、女房お辰(文作)。
△一九四〇	昭和15	7/20~22	京都 南座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(三婦一富・お辰一文・お次一常子・磯之丞一津磨・琴浦一 越名・徳兵衛一駒・団七一隅若・義平次一松島・こっばの権一辰・ なまの八一播路＝八造)、長町裏の段(団七九郎兵衛一相生・儀平次一 呂＝吉五郎)。 ※「京都市出新聞」(7月14・18~20日の記事、7月16・25日の広告)、 「京都日日新聞」(7月23~24日)、『昭和の南座 資料編(上)』に拠 る。	琴浦(紋司)、磯之丞(栄三郎)、一寸徳兵衛(文 二郎)、団七九郎兵衛(栄三)、三婦(政亀)、儀 平次(門造)、お辰(文作)。
△一九四〇	昭和15	8/25	ラジオ放送	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(文字＝新造)。 ※『太棹』第118号では三味線は豊沢新左衛門とする。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(8月25日)、『太棹』第118号に 拠る。	
一九四四	昭和19	8/1~	四ツ橋文楽座	夏祭浪花 鑑 三婦内より 長町裏の段 まで	三婦内の段(口 司＝新三郎、奥 七五三＝綱造)、長町裏の段(団七九郎 兵衛／三河屋義平次一相生／呂＝清二郎)。 ※角書「釣舟三婦／一寸徳兵衛／団七九郎兵衛」。	傾城琴浦(紋司)、玉島磯之丞(紋昇)、一寸徳兵 衛(多三郎)、団七九郎兵衛(玉助)、釣舟三婦 (政亀)、三河屋義平次(玉徳)、女房お辰(栄三 郎)。
一九四六	昭和21	9/1~23	四ツ橋文楽座	夏祭浪花鑑	三ぶ内の段(切 住)、長町裏の段(九郎兵衛／義平次一相生／織)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	琴浦(和夫)、磯之丞(紋之助)、徳兵衛(紋太 郎)、団七九郎兵衛(玉助)、三ぶ(玉市)、義平 次(玉徳)、お辰(栄三郎)。
一九四七	昭和22	8/1~21	四ツ橋文楽座	夏祭浪花鑑	釣舟三婦内の段(中 富＝新三郎、切 住＝広助、後 隅寿＝団作)、長町 裏の段(浜・源＝寛治郎)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。ただし「朝日新聞(大阪)」(8月10 日の広告)では20日を千種楽とする。	傾城琴浦(和夫)、磯之丞(玉枝)、一寸徳兵衛 (紋太郎)、団七九郎兵衛(亀松)、釣舟三婦(門 造)、義平次(玉市)、女房お辰(紋司)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五〇	昭和25	8/4~15	四ツ橋文楽座 〈因会〉	夏祭浪花鑑 釣舟三婦内の段より 長町裏まで	三婦内の段(口 織部/織の=寛弘、奥 宮=新三郎//長子=豊助、後弘/相次=寛弘)、長町裏の段(団七九郎兵衛一雛・義平次一静=友十郎//団七九郎兵衛一河内・義平次一静=豊助)。 ※角書「釣舟三婦/団七九郎兵衛/一寸徳兵衛」。	琴浦(文雀)、磯之丞(光次)、一寸徳兵衛(常次)、団七九郎兵衛(玉助)、釣舟三婦(玉市)、三河屋義平次(玉市)、女房お辰(紋司)。
△	一九五〇	昭和25	ラジオ放送 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	(住、他)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(8月16日)に拠る。	
	一九五一	昭和26	東京三越劇場 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	三婦内の段(中 一日替り 古住/呂賀=一郎右衛門、切 住=友衛門、後 松島=勝太郎)、長町裏の段(団七一つばめ・義平次一司=叶太郎)。 ※桐竹紋昇改め二代桐竹勘十郎襲名披露。	女郎琴浦(紋寿)、磯之丞(紋七)、一寸徳兵衛(駒三郎)、団七(勘十郎)、釣舟の三婦(玉徳)、義平次(玉徳)、お辰(紋之助)。
△	一九五一	昭和26	ラジオ放送 〈因会〉	(夏祭浪花鑑)	長町裏(綱)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(7月25日)に拠る。	
	一九五一	昭和26	京都南座 〈因会〉	夏祭浪花鑑 三婦内より 長町裏の段	釣舟三婦内の段(中 宮=新三郎、切 相生=松之輔、後 十九=寛弘)、長町裏の段(団七九郎兵衛一雛・義平次一隅若改め 静=広助)。 ※角書「釣舟三婦/団七九郎兵衛/一寸徳兵衛」。 ※京都文楽会結成第1回記念公演(「都新聞」(8月11日の広告)に拠る)。	琴浦(和夫改め 文雀)、磯之丞(玉昇)、一寸徳兵衛(光次)、団七九郎兵衛(玉助)、釣舟三婦(兵次)、三河屋義平次(玉市)、女房お辰(紋司改め 玉五郎)。
	一九五二	昭和27	東京新橋演舞場 〈因会〉	夏祭浪花鑑	三婦内の段(中 織の=錦糸、切 相生=松之助//宮=広助、後 十九=寛弘)、長町裏の段(団七九郎兵衛一雛・義平次一静/綱=豊助/八造)。	琴浦(文雀)、磯之丞(光次)、一寸徳兵衛(玉市)、団七九郎兵衛(亀松)、三婦(兵次)、義平次(玉男)、お辰(玉五郎)。
	一九五三	昭和28	中座 〈因会〉	夏祭浪花鑑	釣舟三婦内の段(中 織部/織の=吉三郎、切 相生=松之輔、後 十九=新三郎)、長町裏の段(団七九郎兵衛一雛・義平次一河内=広助)。 ※角書「釣舟三婦/団七九郎兵衛/一寸徳兵衛」。	琴浦(文昇)、玉島磯之丞(文雀)、一寸徳兵衛(常次)、団七九郎兵衛(玉助)、釣舟三婦(兵次)、舅儀平次(玉男)、女房お辰(玉五郎)。
△	一九五四	昭和29	ラジオ放送 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	長町裏の段(つばめ、他)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(7月28日)に拠る。	
△	一九五五	昭和30	ラジオ放送 〈因会〉	夏祭浪花鑑	長町裏の段(雛)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(7月12日)に拠る。	
	一九五五	昭和30	東京新橋演舞場 〈因会〉	夏祭浪花鑑 三婦内より 長町裏の段まで	三婦内の段(中 長子=新三郎、切 相生=松之輔)、長町裏の段(団七九郎兵衛一津・舅義平次一静=寛治郎・胡弓 団二郎)。 ※角書「釣舟三婦/一寸徳兵衛/団七九郎兵衛」。	琴浦(文昇)、玉島磯之丞(文雀)、一寸徳兵衛(光次)、団七九郎兵衛(亀松)、釣舟三婦(兵次)、舅義平次(玉男)、女房お辰(玉五郎)。
△	一九五六	昭和31	ラジオ放送 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	(若、住=燕三)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(2月27日)に拠る。	
△	一九五六	昭和31	テレビ放送 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	長町裏の段(つばめ・住=勝太郎)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(7月31日)に拠る。	(紋十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五七	昭和32	6/20~23	名古屋 毎日ホール 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	釣舟三婦内の段(前 常子=勝平、切 源=叶太郎)、長町裏 泥場の段(儀平次一住・団七一つばめ=燕三)。 ※初代桐竹勘十郎五十回忌追善・二代野沢喜左衛門毎日演劇賞受賞記念公演。	琴浦(紋寿)、磯之丞(紋四郎)、一寸徳兵衛(紋市)、団七九郎兵衛(紋十郎)、釣舟の三婦(国秀)、舅儀平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(紋之助)。
一九五七	昭和32	7/4~21	道頓堀文楽座 〈因会〉	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(中 和佐=徳太郎//長子=錦糸、切 相生=松之輔、後 弘=新三郎//十九=清好)、長町裏の段(舅義平次一綱・団七九郎兵衛一津=吉三郎)。 ※角書「釣船三婦/一寸徳兵衛/団七九郎兵衛」。	琴浦(文昇)、玉島磯之丞(玉幸)、一寸徳兵衛(淳造)、団七九郎兵衛(栄三)、釣舟三婦(玉助)、舅義平次(玉男)、女房お辰(亀松)。
一九五八	昭和33	6/25~29	東京 新橋演舞場 〈合同〉	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(中 古住=八造、切 相生=松之輔、後 弘/小松=清好)、長町裏の段(舅義平次一相生・団七九郎兵衛一津=勝太郎)。 ※角書「釣船三婦/一寸徳兵衛/団七九郎兵衛」。	傾城琴浦(文雀)、玉島磯之丞(紋二郎)、一寸徳兵衛(玉男)、団七九郎兵衛(亀松)、釣舟の三婦(辰五郎)、舅義平次(玉市)、女房お辰(勘十郎)。
一九五八	昭和33	7/10~17	京都 南座 〈合同〉	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(中 十九=八造、津=寛治//つばめ=喜左衛門、後 小松=清好)、長町裏の段(団七九郎兵衛一織の・舅義平次一古住=吉三郎)。 ※角書「釣船三婦/一寸徳兵衛/団七九郎兵衛」。	琴浦(文雀)、玉島磯之丞(紋二郎)、一寸徳兵衛(東太郎)、団七九郎兵衛(亀松)、釣船三婦(辰五郎)、舅義平次(玉市)、女房お辰(勘十郎)。
△一九五八	昭和33	8/1	ラジオ放送 〈合同〉	夏祭浪花鑑	三婦内から長町裏まで(織の、古住)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(8月1日)に拠る。	
一九五九	昭和34	7/1~12	道頓堀文楽座 〈因会〉	夏祭浪花鑑 通し狂言	住吉鳥居前の段(伊達路=藤二郎、南部=錦糸)、内本町道具屋の段(中 弘=団六、切 相生=松之輔)、釣舟三婦内の段(中 織の=吉三郎、後 津=寛治)、長町裏の段(義平次一綱・九郎兵衛一津=弥七)、田島町団七内の段(役毎日替 土佐/松=藤蔵、跡 織の=団六)。 ※角書「釣舟三婦/一寸徳兵衛/団七九郎兵衛」。 ※鷺谷禱風=訂、西亭=補曲、大塚克三=装置。 ※「今回は明治四十二年六月の御霊文楽座以来実に五十年ぶりに、三段目の住吉鳥居前、四段目の内本町道具屋に、八段目の田島町団七内を加えて、全段の筋を通して」(筋書)。 ※7月11日「三婦内の段」「長町裏の段」テレビ放送(「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(7月11日)に拠る)。	傾城琴浦(文雀)、玉島磯之丞・手代清七(文昇)、女房お梶(亀松)、一寸徳兵衛(栄三)、団七九郎兵衛(玉助)、釣舟三婦(玉市)、番頭伝八(玉男)、娘お中(文雀)、主人孫右衛門(兵次)、侍実は義平次・三河屋義平次(玉市)、女房おたつ(文五郎事 難波掾)。
一九五九	昭和34	7/4~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	夏祭浪花鑑	三婦内の段(中 若子=勝平、切 つばめ=喜左衛門)、長町裏の段(儀平次一源・団七一古住=市治郎)。 ※桐竹紋之助改め四代目豊松清十郎襲名披露。 ※8月18日ラジオ放送(「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(8月18日)に拠る)。	琴浦(勘之助)、磯之丞(紋寿)、一寸徳兵衛(淳造)、団七九郎兵衛(紋十郎)、釣舟の三婦(辰五郎)、儀平次(勘十郎)、お辰(紋之助改 清十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六一	昭和36	7/2~11	道頓堀文楽座 〈因会〉	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(前 津の子=団二郎//相子=藤二郎、中 大隅=吉三郎、後 津弥=団二郎//松香=藤二郎)、長町裏の段(団七九郎兵衛一織の・舅義平次一十九/伊達路=徳太郎)。 ※角書「団七九郎兵衛/釣船三婦/一寸徳兵衛」。	傾城琴浦(文昇)、玉島磯之丞(小玉)、一寸徳兵衛(東太郎)、団七九郎兵衛(玉助)、釣船三婦(玉市)、三河屋義平次(玉男)、女房お辰(玉五郎)。
一九六四	昭和39	7/3~15	朝日座	夏祭浪花鑑 住吉鳥居前の段より 長町裏の段まで	住吉鳥居前の段(前 津弥/松香=喜左衛門、後 小松=喜左衛門)、内本町道具屋の段(口 若子=松之輔、中 伊達路=松之輔、奥 綱子=松之輔)、三婦内の段(つばめ=錦糸、アト 相子=勝平)、長町裏の段(義平次一津・団七十九=寛治)。 ※鷺谷禱風=訂・野沢松之輔=補曲。	傾城琴浦(紋十郎)、玉島磯之丞(栄三)、女房お梶(紋寿)、一寸徳兵衛(亀松)、団七九郎兵衛(玉昇)、釣船三婦(辰五郎)、番頭伝八(玉幸)、娘お中(一暢)、侍実は義平次・三河屋義平次(勘十郎)、主人孫右衛門(紋弥)、女房お辰(簗助)。
一九六七	昭和42	5/27~28	名古屋 中日劇場	夏祭浪花鑑 通し狂言	住吉鳥居前の段(小春=団二郎、小松=徳太郎)、内本町道具屋の段(若子=団六、文字=燕三)、三婦内の段(相生=重造、相子=勝平)、長町裏の段(義平次一綱・団七一咲=弥七)、田島町団七内の段(春子=勝太郎、伊達路=叶太郎)。 ※中日劇場開場1周年記念公演。	傾城琴浦(小玉)、玉島磯之丞(文昇)、女房お梶(亀松)、一寸徳兵衛(清十郎)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣舟三婦(辰五郎)、番頭伝八(作十郎)、娘お中(紋寿)、三河屋義平次(玉男)、主人孫右衛門(国秀)、女房お辰(玉五郎)。
一九六七	昭和42	6/2~4	京都 弥栄会館	夏祭浪花鑑	三婦内の段(文字=錦糸、松香=団二郎)、長町裏の段(義平次一十九・団七一綱子改め 咲=燕三)。	傾城琴浦(小玉)、玉島磯之丞(紋弥)、一寸徳兵衛(清十郎)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(辰五郎)、三河屋義平次(玉男)、女房お辰(玉五郎)。
一九六七	昭和42	6/18~7/2	東京 国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(小春=団二郎、小松=徳太郎)、内本町道具屋の段(若子=団六、文字=松之輔)、三婦内の段(咲=清治、相生=重造、相子=勝平)、長町裏の段(義平次一綱・団七一咲=弥七)、田島町団七内の段(春子=勝太郎、伊達路=団二郎)。	傾城琴浦(簗助)、玉島磯之丞(玉昇)、女房お梶(亀松)、一寸徳兵衛(清十郎)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(辰五郎)、番頭伝八(紋寿)、娘お中(一暢)、主人孫右衛門(淳造)、三河屋義平次(玉男)、女房お辰(栄三)。
一九六八	昭和43	7/21~8/4	朝日座	夏祭浪花鑑 三婦内の段より 長町裏の段	三婦内の段(相子=清治、相生=重造)、長町裏の段(義平次一綱・団七一咲=弥七)。 ※文楽渡欧公演帰朝記念。	傾城琴浦(文雀)、玉島磯之丞(文昇)、一寸徳兵衛(玉昇)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(栄三)、三河屋義平次(玉男)、女房お辰(亀松)。
一九六八	昭和43	8/5~6	朝日座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(松香=勝之輔、伊達路=団二郎)、長町裏の段(団七一島・義平次一文字=勝之輔)。 ※第4回文楽若手向上会。	傾城琴浦(簗太郎)、玉島磯之丞(昇二郎)、一寸徳兵衛(作十郎)、団七九郎兵衛(紋弥)、釣船三婦(簗助)、三河屋義平次(玉幸)、女房お辰(一暢)。
一九七一	昭和46	7/19~30	朝日座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(越路=喜左衛門)、長町裏の段(義平次一織・団七一小松=燕三)。	傾城琴浦(文昇)、玉島磯之丞(小玉)、一寸徳兵衛(紋弥)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(清十郎)、三河屋義平次(玉男)、女房お辰(簗助)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七五	昭和50	5/30~6/1	京都 京都府立文化 芸術会館	夏祭浪花鑑 三婦内の段 より 長町裏の段	三婦内の段(南部=燕三)、長町裏の段(義平次=十九・団七一伊達路=吉兵衛)。 ※京都文楽会25周年記念公演。	傾城琴浦(紋寿)、玉島磯之丞(勘寿)、一寸徳兵衛(玉松)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(作十郎)、三河屋義平次(玉昇)、女房お辰(清十郎)。
一九七六	昭和51	5/15~29	東京 国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 津国=浅造、奥 呂=重造)、内本町道具屋の段(口 松香=清友、奥 小松=道八)、釣船三婦内の段(織=燕三)、長町裏の段(団七一十九・義平次=伊達路=叶太郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※鶴沢叶太郎休演のため、「長町裏の段」を鶴沢道八が代演。	傾城琴浦(和生)、玉島磯之丞(紋寿)、団七女房お梶(文雀)、一寸徳兵衛(簗助)、団七九郎兵衛(清十郎)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(玉松)、娘お中(小玉)、道具屋孫右衛門(玉幸)、三河屋義平次(玉男)、徳兵衛女房お辰(亀松)。
一九七八	昭和53	7/7~23	朝日座	夏祭浪花鑑	三婦内の段(松香=勝司、越路=清治)、長町裏の段(義平次=伊達路・団七一小松=重造)。 ※文楽協会創立15周年記念。	傾城琴浦(紋寿)、玉島磯之丞(勘寿)、一寸徳兵衛(小玉)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉男)、三河屋義平次(玉昇)、女房お辰(文雀)。
一九八〇	昭和55	5/10~25	東京 国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(口 緑=錦弥、奥 文字=勝平)、長町裏の段(団七一伊達路・義平次=嶋=叶太郎)。	遊女琴浦(和生)、玉島磯之丞(勘寿)、一寸徳兵衛(玉幸)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(小玉)、三河屋義平次(作十郎)、女房お辰(文雀)。
一九八〇	昭和55	6/21~24	京都 京都府立文化 芸術会館	夏祭浪花鑑	三婦内の段(松香=清友、文字=勝平)、長町裏の段(団七一織・義平次=伊達路=団六)。	傾城琴浦(和生)、玉島磯之丞(勘寿)、一寸徳兵衛(玉幸)、団七九郎兵衛(清十郎)、釣船三婦(文雀)、三河屋義平次(作十郎)、女房お辰(亀松)。
一九八二	昭和57	7/9~25	朝日座	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 三輪=吉之助、奥 小松=団六)、内本町道具屋の段(口 津駒=錦弥、奥 織=燕三)、三婦内の段(口 貴=八介、奥 越路=清治)、長町裏の段(義平次=伊達路・団七一呂=叶太郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※文楽協会創立20周年記念・国立文楽劇場建設記念。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞(玉松)、団七女房お梶(亀松)、一寸徳兵衛(簗助)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(玉女)、娘お中(簗太郎)、道具屋孫右衛門(文昇)、三河屋義平次(玉男)、徳兵衛女房お辰(清十郎)。
一九八二	昭和57	7/28~29	名古屋 中日劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 三輪=吉之助、奥 小松=団六)、内本町道具屋の段(口 津駒=錦弥、奥 織=燕三)、三婦内の段(口 貴=八介、奥 越路=清治)、長町裏の段(義平次=伊達路・団七一呂=叶太郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞(玉松)、団七女房お梶(亀松)、一寸徳兵衛(簗助)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(玉女)、娘お中(簗太郎)、三河屋義平次(玉男)、道具屋孫右衛門(文昇)、徳兵衛女房お辰(清十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八五	昭和60	7/6~22	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 三輪=団治、奥 相生=錦弥)、内本町道具屋の段(口 南都=弥三郎、切 南部=団六)、道行妹背の走書(磯之丞一英・お中一貴・三婦一津国・伝八一千歳=清介・錦弥・団治)、釣船三婦内の段(口 緑=燕二郎、切 津=団七)、長町裏の段(義平次一伊達路・団七一呂=叶太郎)、田島町団七内の段(前 十九=錦糸、後 英=浅造)。※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。竹沢団七=作曲(「道行妹背の走書」)。※竹本津太夫16日休演のため、「釣船三婦内の段・切」を竹本住太夫が代演。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞・清七実は磯之丞(一暢)、団七女房お梶(文昇)、一寸徳兵衛(文吾)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(玉松)、娘お中(蓑太郎)、道具屋孫右衛門(玉也)、田舎侍実は三河屋義平次・三河屋義平次(文雀)、徳兵衛女房お辰(蓑助)。
△一九八五	昭和60	7/26~28	ハワイケネディ劇場	(夏祭浪花鑑)	長町裏の段(呂・英=富助)。※ハワイ移民百年祭。※『文楽』第4号に拠る。	団七(一暢)、義平次(蓑助)。
一九八七	昭和62	7/3~19	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 貴=八介、奥 呂=清介)、釣船三婦内の段(口 松香=弥三郎、切 津=団七)、長町裏の段(三河屋義平次一伊達路・団七九郎兵衛一小松=錦糸)。※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」)。※二世桐竹勘十郎一周忌追善狂言。※豊竹呂太夫3~14日休演のため、「住吉鳥居前の段・奥」を豊竹英太夫が代演。	傾城琴浦(清之助)、玉島磯之丞(勘寿)、団七女房お梶(文昇)、一寸徳兵衛(玉松)、団七九郎兵衛(蓑太郎)、釣船三婦(玉男)、三河屋義平次(蓑助)、徳兵衛女房お辰(紋寿)。
一九八七	昭和62	9/12~27	東京国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(口 緑=弥三郎、切 津=団七)、長町裏の段(団七一呂・義平次一相生=清友)。※二世桐竹勘十郎一周忌追善狂言。※竹本緑太夫休演のため、「釣船三婦内の段・口」を竹本津駒太夫が代演。竹本津太夫休演のため、「釣船三婦内の段・切」を豊竹嶋太夫が代演。	傾城琴浦(清之助)、玉島磯之丞(和生)、一寸徳兵衛(勘寿)、団七九郎兵衛(蓑太郎)、釣船三婦(作十郎)、三河屋義平次(三婦内=勘弥/勘緑、長町裏=蓑助)、徳兵衛女房お辰(蓑助)。
一九八九	平成1	6/2~22	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(口 津梅=清二郎//千歳=団治、奥 咲=富助)、長町裏の段(義平次一相生・団七一英=燕二郎)。※第6回文楽鑑賞教室。	遊女琴浦(一暢/紋寿)、玉島磯之丞(勘寿)、一寸徳兵衛(玉女/蓑太郎)、団七九郎兵衛(文吾/玉幸)、釣船三婦(玉松)、三河屋義平次(玉幸/文吾)、女房お辰(文雀)。
一九九〇	平成2	5/29~6/1	東京ラフォーレミュージアム原宿	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(津駒・津梅・文字久・呂勢=弥三郎)、釣船三婦内の段(伊達=清友)、長町裏の段(団七一呂・義平次一相生=団治)。※第4回原宿文楽。	傾城琴浦(玉英)、玉島磯之丞(清三郎)、団七女房お梶(清之助)、一寸徳兵衛(文司)、団七九郎兵衛(蓑太郎)、釣船三婦(玉也)、三河屋義平次(三婦内=勘緑、長町裏=蓑助)、徳兵衛女房お辰(蓑助)。
一九九〇	平成2	6月3日	近鉄アート館	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(津駒・津梅・文字久・呂勢=弥三郎)、釣船三婦内の段(伊達=清友)、長町裏の段(団七一呂・義平次一相生=団治)。※第4回原宿文楽大阪公演。	傾城琴浦(玉英)、玉島磯之丞(清三郎)、団七女房お梶(清之助)、一寸徳兵衛(文司)、団七九郎兵衛(蓑太郎)、釣船三婦(玉也)、三河屋義平次(三婦内=勘緑、長町裏=蓑助)、徳兵衛女房お辰(蓑助)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九九三	平成5	7/28～ 8/18	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 呂勢=団吾、奥 緑=錦弥)、内本町道具屋の段(口 南都=喜一朗、奥 小松=喜左衛門)、釣船三婦内の段(口 千歳=燕二郎、切 住=燕三、アト 文字久=清太郎)、長町裏の段(義平次-伊達・団七一呂=富助)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※鶴沢燕三休演のため、「釣船三婦内の段・切」を野沢錦弥が代演。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞・清七実は磯之丞(一暢)、団七女房お梶(簗太郎)、一寸徳兵衛(文吾)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(文司)、娘お中(清之助)、道具屋孫右衛門(亀次)、田舎侍実は三河屋義平次・三河屋義平次(文雀)、徳兵衛女房お辰(簗助)。	
一九九三	平成5	9/4～19	東京 国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 呂勢=団吾、奥 緑=錦弥)、内本町道具屋の段(口 南都=喜一朗、奥 小松=喜左衛門)、道行妹背の走書(磯之丞-津駒・お中一貴・三婦-文字栄・伝八-始=団治・浅造・清太郎・団市)、釣船三婦内の段(口 千歳=燕二郎、切 住=燕三、アト 文字久=清太郎)、長町裏の段(義平次-伊達・団七一呂=富助)、田島町団七内の段(奥 咲=清友、アト 津国=清二郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。竹沢団七=作曲(道行妹背の走書)。 ※竹沢団吾休演のため、「住吉鳥居前の段・口」を野沢喜一朗が代演。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞・清七実は磯之丞(玉松)、団七女房お梶(文昇)、一寸徳兵衛(文吾)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(簗太郎)、娘お中(和生)、道具屋孫右衛門(玉女)、田舎侍実は三河屋義平次・三河屋義平次(文雀)、徳兵衛女房お辰(簗助)。	
一九九五	平成7	6/28～29	京都 南座	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 南都=喜一朗、奥 小松=燕二郎)、内本町道具屋の段(口 貴=清太郎、奥 伊達=喜左衛門)、釣船三婦内の段(切 住=燕三、アト 文字久=清二郎)、長町裏の段(団七一呂・義平次-相生=清友)。 ※住吉鳥居前の段・内本町道具屋の段、野沢松之輔補曲。	傾城琴浦(清之助)、玉島磯之丞(玉女)、団七女房お梶(和生)、一寸徳兵衛(文吾)、団七九郎兵衛(住吉～道具屋=簗太郎、三婦内～長町裏=簗助)、釣船三婦(玉幸)、番頭伝八(簗二郎)、お中(勘弥)、三河屋義平次(道具屋=玉也、三婦内～長町裏=玉男)、徳兵衛女房お辰(文雀)、道具屋孫右衛門(玉志)。	
一九九七	平成9	7/20～ 8/10	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 津国=団吾、奥 小松=団七)、内本町道具屋の段(南都=喜一朗、奥 伊達=喜左衛門)、釣船三婦内の段(口 文字久=清太郎、切 嶋=団六)、長町裏の段(団七一呂・義平次-相生=富助)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。	傾城琴浦(勘寿)、玉島磯之丞・手代清七実は磯之丞(玉松)、団七女房お梶(紋寿)、一寸徳兵衛(簗太郎/玉女)、団七九郎兵衛(文吾)、釣船三婦(作十郎)、番頭伝八(文司)、娘お中(清之助)、道具屋孫右衛門(亀次)、田舎侍実は三河屋義平次・三河屋義平次(玉幸)、徳兵衛女房お辰(簗助)。	
△	一九九八	平成10	5/28	大分 湯布院美術館	夏祭浪花鑑	長町裏(団七一緑・他=燕二郎)。 ※ゆふいん薪文楽。 ※富岡泰作成「竹本緑大夫舞台年表」に拠る。	
△	一九九八	平成10	8/29	神奈川 北相模大石神社	夏祭浪花鑑	長町裏(団七一緑・他=清志郎)。 ※大石神社人形浄瑠璃。 ※富岡泰作成「竹本緑大夫舞台年表」に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九八	平成10	9/27～ 10/15	地方公演 (近畿・中 京・関東・東 北・東海)	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(口 津国=清太郎、切 綱=清二郎)、長町裏の段(義平次-伊達・団七-緑=清友)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣船三婦／一寸徳兵衛」。 ※文楽協会創立35周年記念。 ※鶴沢清太郎休演のため、「釣船三婦内の段・口」を鶴沢清志郎が代演。桐竹一暢休演のため、三河屋義平次を吉田玉幸が代演。	傾城琴浦(簀二郎)、玉島磯之丞(文司)、一寸徳兵衛(玉女／簀太郎)、団七九郎兵衛(簀太郎／玉女)、釣船三婦(文吾)、三河屋義平次(一暢)、徳兵衛女房お辰(簀助)。
一九九九	平成11	2/28～ 3/23	地方公演 (中国・九 州・近畿・東 海・関東・北 陸)	夏祭浪花鑑	釣船三婦内の段(口 三輪=宗助、切 住=錦糸、後 呂勢=喜一郎)、長町裏の段(義平次-相生・団七-咲=燕二郎)。 ※角書「団七九郎兵衛／釣船三婦／一寸徳兵衛」。 ※文楽協会創立35周年記念。 ※竹本相生大夫休演のため、「長町裏の段」義平次を竹本伊達大夫が代演。	傾城琴浦(亀次)、玉島磯之丞(玉志)、一寸徳兵衛(文司)、団七九郎兵衛(簀太郎／玉女)、釣船三婦(文吾)、三河屋義平次(玉幸)、徳兵衛女房お辰(紋寿)。
二〇〇一	平成13	7/21～ 8/12	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 津国=弥三郎、奥 松香=喜左衛門)、釣船三婦内の段(口 文字久=喜一郎、切 住=錦糸、アト 咲甫=清志郎)、長町裏の段(義平次-伊達・団七-英=寛治)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」)。	傾城琴浦(和生)、玉島磯之丞(勘寿)、団七女房お梶(一暢)、一寸徳兵衛(文吾)、団七九郎兵衛(簀太郎／玉女)、釣船三婦(玉幸)、三河屋義平次(玉男)、徳兵衛女房お辰(簀助)。
二〇〇二	平成14	9/7～22	東京 国立劇場小劇 場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 南都=喜一郎、奥 三輪=清友)、内本町道具屋の段(口 津国=団吾、奥 伊達=富助)、釣船三婦内の段(口 新=清志郎、切 住=錦糸、アト 始=清胤)、長町裏の段(義平次-松香・団七-千歳=寛治)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※桐竹一暢休演のため、団七女房お梶を吉田和生が代演。	傾城琴浦(玉英)、玉島磯之丞・手代清七実(玉島磯之丞(勘寿改め 紋豊)、団七女房お梶(一暢)、一寸徳兵衛(玉輝)、団七九郎兵衛(簀太郎／玉女)、釣船三婦(玉幸)、番頭伝八(玉志)、娘お中(清之助)、道具屋孫右衛門(玉松)、田舎侍実(三河屋義平次・三河屋義平次(玉女／簀太郎)、徳兵衛女房お辰(簀助)。
二〇〇三	平成15	12/4～16	東京 国立劇場小劇 場	夏祭浪花鑑	【Aプロ】釣船三婦内の段(口 貴=団吾、奥 英=富助、アト 咲甫=清胤)、長町裏の段(義平次-松香・団七-呂勢=宗助)。 ※吉田勘弥休演のため、傾城琴浦を吉田簀一郎が代演。 【Bプロ】釣船三婦内の段(口 始=清志郎、奥 津駒=清介、アト 咲甫=清胤)、長町裏の段(義平次-松香・団七-新=宗助)。 ※第35回文楽鑑賞教室。	傾城琴浦(勘弥)、玉島磯之丞(簀二郎)、一寸徳兵衛(簀一郎)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉輝)、三河屋義平次(文吾)、徳兵衛女房お辰(紋寿)。 傾城琴浦(和右)、玉島磯之丞(清三郎)、一寸徳兵衛(勘市)、団七九郎兵衛(玉女)、釣船三婦(文司)、三河屋義平次(文吾)、徳兵衛女房お辰(紋寿)。
二〇〇五	平成17	7/2～3	京都 南座	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(松香=宗助)、内本町道具屋の段(口 三輪=団吾、奥 英=団七)、釣船三婦内の段(口 文字久=清志郎、切 住=錦糸、アト 新=喜一郎)、長町裏の段(団七-十九・義平次-伊達=富助)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※第11回京都公演。	傾城琴浦(清之助)、玉島磯之丞・手代清七実(玉島磯之丞(文司)、団七女房お梶(玉英)、一寸徳兵衛(玉女)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(文吾)、番頭伝八(玉佳)、娘お中(和右)、田舎侍実(三河屋義平次・三河屋義平次(玉也)、道具屋孫右衛門(紋豊)、徳兵衛女房お辰(文雀)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇六	平成18	7/21~8/9	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 つばさ=清丈、奥 松香=清友)、内本町道具屋の段(口 南都=団吾、奥 咲=燕三)、釣船三婦内の段(口 新=清志郎、切 住=錦糸、アト 始=龍聿)、長町裏の段(団七一綱・義平次一英=清二郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※豊沢龍聿休演のため、「釣船三婦内の段・アト」を豊沢龍爾が代演。 ※「清丈」の丈は異体字。	傾城琴浦(勘弥)、玉島磯之丞・手代清七実(玉島磯之丞(清之助)、団七女房お梶(紋豊)、一寸徳兵衛(玉輝)、団七九郎兵衛(玉女)、釣船三婦(文吾)、番頭伝八(文司)、娘お中(玉英)、道具屋孫右衛門(亀次)、田舎侍実(三河屋義平次・三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(襄助)。
二〇〇六	平成18	8/26~27	愛媛内子座	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(文字久=宗助)、釣船三婦内の段(口 呂勢=清志郎、切 住=錦糸、アト 新=喜一郎)、長町裏の段(団七一千歳・義平次一英=清治)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」)。 ※第10回記念公演。	傾城琴浦(清之助)、玉島磯之丞(文司)、団七女房お梶(和右)、一寸徳兵衛(玉女)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉也)、三河屋義平次(文吾)、徳兵衛女房お辰(和生)。
二〇〇七	平成19	9/8~24	東京国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 咲甫=寛太郎、奥 松香=清友)、内本町道具屋の段(口 津国=龍爾、奥 千歳=清治)、道行妹背の走書(磯之丞一呂勢・お中一南都・三婦一文字栄・伝八一つばさ=団七・団吾・清道・清公)、釣船三婦内の段(切 住=錦糸、アト 始=清丈)、長町裏の段(団七一綱・義平次一伊達=清二郎)、田島町団七内の段(咲=燕三、アト 相子=清道)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。竹沢団七=作曲(「道行妹背の走書」)。	傾城琴浦(勘弥)、玉島磯之丞・手代清七実(玉島磯之丞(清之助)、団七女房お梶(和生)、一寸徳兵衛(玉女)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(紋寿)、番頭伝八(襄二郎)、娘お中(玉英)、道具屋孫右衛門(亀次)、田舎侍実(三河屋義平次・三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(襄助)。
二〇〇九	平成21	5/30~31	岐阜相生座	夏祭浪花鑑	長町裏の段(団七一呂勢・義平次一千歳=宗助)。 ※第2回相生座文楽。	団七九郎兵衛(勘十郎)、三河屋義平次(玉也)。
二〇一〇	平成22	7/17~8/3	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 つばさ=寛太郎、奥 文字久=富助)、内本町道具屋の段(口 相子=清道、奥 英=団七)、釣船三婦内の段(口 芳穂=喜一郎、切 住=錦糸、アト 希=龍爾)、長町裏の段(団七一千歳・義平次一松香=清介)、田島町団七内の段(切 咲=燕三、アト 始=清志郎)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(清五郎)、玉島磯之丞(文司)、団七女房お梶(清十郎)、一寸徳兵衛(玉也)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(紋寿)、番頭伝八(勘緑)、娘お中(清三郎)、道具屋孫右衛門(亀次)、三河屋義平次(玉女)、徳兵衛女房お辰(襄助)。
二〇一二	平成24	9/8~24	東京国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 希=寛太郎、奥 松香=清友)、内本町道具屋の段(口 南都=団吾、奥 文字久=清介)、釣船三婦内の段(口 芳穂=清道、切 住=錦糸、アト 靖=龍爾)、長町裏の段(団七―源・義平次一英=藤蔵)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」「内本町道具屋の段」)。 ※竹本住太夫休演のため、「釣船三婦内の段・切」を竹本文字久太夫が代演。竹本源太夫19~20・23~24日休演のため、「長町裏の段」団七を竹本相子太夫が代演。 ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(清五郎)、玉島磯之丞(勘弥)、団七女房お梶(勘寿)、一寸徳兵衛(玉輝)、団七九郎兵衛(玉女)、釣船三婦(紋寿)、番頭伝八(一輔)、娘お中(文昇)、道具屋孫右衛門(亀次)、三河屋義平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(襄助)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一三	平成25	7/20~8/5	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 靖=清丈、奥 文字久=清友)、釣船三婦内の段(口 相子=清志郎、切 住=錦糸、アト 希=寛太郎)、長町裏の段(団七一 千歳・義平次一松香=藤蔵)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」)。 ※公益財団法人文楽協会設立50周年記念・竹本義太夫300回忌。 ※竹本相子太夫休演のため、「釣船三婦内の段・口」を豊竹芳穂太夫が代演。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	傾城琴浦(勘弥)、玉島磯之丞(文昇)、団七女房お梶(文雀)、一寸徳兵衛(文司)、団七九郎兵衛(玉女)、釣船三婦(紋寿)、三河屋義平次(和生)、徳兵衛女房お辰(簗助)。
二〇一五	平成27	3/3	東京赤坂区民センター区民ホール	夏祭浪花鑑	長町裏の段(千歳・呂勢=藤蔵)。 ※赤坂文楽～伝統を受継ぐ～其の五。	
二〇一五	平成27	6/14~16	大阪市中央公会堂大集会室	夏祭浪花鑑	長町裏の段(団七一英・義平次一三輪=清介)。 ※ムムム!!文楽シリーズ「中之島文楽」。	団七九郎兵衛(幸助)、三河屋義平次(玉佳)。
二〇一六	平成28	6/3~16	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	【3~6・8~9日午前・7日午後】釣船三婦内の段(口 芳穂=団吾、奥 千歳=富助、アト 靖=寛太郎)、長町裏の段(団七一咲甫・義平次一英=清友)。 ※「芳穂」のは異体字。 ----- 【3~6・8~9日午後】釣船三婦内の段(口 芳穂=清丈、奥 呂勢=燕三、アト 希=龍爾)、長町裏の段(団七一睦・義平次一英=宗助)。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。 ----- 【10~12・14~16日午前・13日午後】釣船三婦内の段(口 始=寛太郎、奥 文字久=藤蔵、アト 咲寿=清公)、長町裏の段(団七一芳穂・義平次一津駒=清介)。 ※「芳穂」の芳は異体字。 ----- 【10~11・14~16日午後】釣船三婦内の段(口 希=龍爾、奥 咲甫=錦糸、アト 小住=錦吾)、長町裏の段(団七一靖・義平次一津駒=清志郎)。 ※第33回文楽鑑賞教室。	傾城琴浦(紋臣)、玉島磯之丞(簗一郎)、一寸徳兵衛(勘次郎)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉男)、三河屋義平次(和生)、徳兵衛女房お辰(清十郎)。 ----- 傾城琴浦(清五郎)、玉島磯之丞(勘市)、一寸徳兵衛(玉彦)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(和生)、三河屋義平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(簗二郎)。 ----- 傾城琴浦(簗紫郎)、玉島磯之丞(玉勢)、一寸徳兵衛(和馬)、団七九郎兵衛(玉志)、釣船三婦(玉輝)、三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(勘弥)。 ----- 傾城琴浦(玉誉)、玉島磯之丞(玉翔)、一寸徳兵衛(簗之)、団七九郎兵衛(幸助)、釣船三婦(文司)、三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(一輔)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一六	平成28	6/7	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(希=龍爾)、釣船三婦内の段(口 芳穂=清丈、奥 呂勢=燕三、アト 希=龍爾)、長町裏の段(団七一睦・義平次一英=宗助)。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	傾城琴浦(清五郎)、玉島磯之丞(勘市)、団七女房お梶(玉誉)、一寸徳兵衛(住吉=紋秀、三婦内=玉彦)、団七九郎兵衛(住吉=文哉、三婦内・長町裏=玉男)、釣船三婦(和生)、三河屋義平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(簗二郎)。
		6/13			住吉鳥居前の段(靖=寛太郎)、釣船三婦内の段(口 希=龍爾、奥 咲甫=錦糸、アト 小住=錦吾)、長町裏の段(団七一靖・義平次一津駒=清志郎)。 ※社会人のための文楽入門。	傾城琴浦(玉誉)、玉島磯之丞(玉翔)、団七女房お梶(玉翔)、一寸徳兵衛(住吉=簗紫郎、三婦内=簗之)、団七九郎兵衛(住吉=玉勢、三婦内・長町裏=幸助)、釣船三婦(文司)、三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(一輔)。
二〇一六	平成28	6/12	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(靖=寛太郎)、釣船三婦内の段(口 希=龍爾、奥 咲甫=錦糸、アト 小住=錦吾)、長町裏の段(団七一靖・義平次一津駒=清志郎)。 ※Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—。	傾城琴浦(玉誉)、玉島磯之丞(玉翔)、団七女房お梶(玉翔)、一寸徳兵衛(住吉=簗紫郎、三婦内=簗之)、団七九郎兵衛(住吉=玉勢、三婦内・長町裏=幸助)、釣船三婦(文司)、三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(一輔)。
二〇一七	平成29	7/9	山口ルネッサながと	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(睦=清尙)、釣船三婦内の段(呂勢=燕三)、長町裏の段(義平次一三輪・団七一靖=宗助・寛太郎・燕二郎)。 ※第5回ながと近松文楽。	傾城琴浦(紋臣)、玉島磯之丞(簗一郎)、団七女房お梶(一輔)、一寸徳兵衛(玉佳)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉男)、三河屋義平次(玉志)、徳兵衛女房お辰(清十郎)。
二〇一七	平成29	7/22~8/8	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 咲寿=団吾、奥 睦=宗助)、釣船三婦内の段(口 小住=清公、奥 千歳=富助)、長町裏の段(団七一咲甫・義平次一津駒=寛治)。 ※野沢松之輔=補曲(「住吉鳥居前の段」)。	傾城琴浦(紋臣)、玉島磯之丞(清五郎)、団七女房お梶(一輔)、一寸徳兵衛(幸助)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉輝)、三河屋義平次(玉也)、徳兵衛女房お辰(簗助)。

平成30年9月以降の国立劇場・国立文楽劇場での公演記録

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一八	平成30	9/8～24	東京 国立劇場小劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 咲寿(8～16)/小住(17～24)=友之助(8～16)/寛太郎(17～24)、奥 睦=勝平)、内本町道具屋の段(口 亘=清公、奥 三輪=宗助)、道行妹背の走書(磯之助一織・お中一芳穂・三婦一文字栄・伝八=團吾・清丈・錦吾・燕二郎)、釣船三婦内の段(口 小住(8～16)/咲寿(17～24)=寛太郎(8～16)/友之助(17/24)、奥 呂勢=清治)、長町裏の段(団七一《6》織・義平次一三輪=清志郎)、田島町団七内の段(文字久=清介、アト 希=清丈) ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	傾城琴浦(清五郎)、玉島磯之丞(勘彌)、団七女房お梶(清十郎)、一寸徳兵衛(文司)、大鳥佐賀右衛門(玉勢)、団七九郎兵衛(勘十郎)、釣船三婦(玉也)、倅市松(簗之)、こっぱの権(紋秀)、なまの八(玉翔(8～16)/簗太郎(17～24))、番頭伝八(簗二郎)、娘お中(文昇)、道具屋孫右衛門(玉輝)、三河屋義平次(玉男)、徳兵衛女房お辰(簗助)、仲買弥市(文哉)、三婦女房おつぎ(勘壽)。

「夏祭浪花鑑」上演年表

二〇二〇	令和2	6/5~18	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	【5~11午前】釣船三婦内の段(口 亘=清丈、奥 呂勢=富助)、長町裏の段(団七一睦・義平次一織=清友) ※「清丈」の丈は異体字。	傾城琴浦(簗紫郎)、玉島磯之丞(玉翔)、一寸徳兵衛(玉彦)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(玉輝)、三婦女房おつぎ(文昇)、三河屋義平次(玉志)、徳兵衛女房お辰(簗二郎)、こっばの権(亀次)、なまの八(勘次郎)。
					【12・13・15~18午前】釣船三婦内の段(口 亘=清植、奥 藤=清介)、長町裏の段(団七一希・義平次一睦=宗助)	傾城琴浦(紋吉)、玉島磯之丞(文哉)、一寸徳兵衛(勘介)、団七九郎兵衛(玉佳)、釣船三婦(玉也)、三婦女房おつぎ(紋臣)、三河屋義平次(玉助)、徳兵衛女房お辰(勘彌)、こっばの権(勘次郎)、なまの八(和馬)。
					【5~11午後】釣船三婦内の段(口 咲寿=友之助、奥 靖=錦糸)、長町裏の段(団七一芳穂・義平次一藤=清志郎) ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(玉誓)、玉島磯之丞(玉勢)、一寸徳兵衛(玉路)、団七九郎兵衛(玉志)、釣船三婦(勘市)、三婦女房おつぎ(清五郎)、三河屋義平次(文昇)、徳兵衛女房お辰(清十郎)、こっばの権(勘介)、なまの八(簗之)。
					【12・13・15~18午後】釣船三婦内の段(口 咲寿=寛太郎、奥 織=燕三)、長町裏の段(団七一小住・義平次一芳穂=藤蔵) ※第37回文楽鑑賞教室 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止 ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(紋秀)、玉島磯之丞(簗太郎)、一寸徳兵衛(和馬)、団七九郎兵衛(玉助)、釣船三婦(文司)、三婦女房おつぎ(簗一郎)、三河屋義平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(一輔)、こっばの権(玉彦)、なまの八(玉路)。
6/14	釣船三婦内の段(口 亘=清植(午前)/咲寿=寛太郎(午後)、奥 藤=清介(午前)/織=燕三(午後))、長町裏の段(団七一希・義平次一睦=宗助(午前)/団七一小住・義平次一芳穂=藤蔵(午後)) ※大人のための文楽入門 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止 ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(紋吉(午前)/紋秀(午後))、玉島磯之丞(文哉(午前)/簗太郎(午後))、一寸徳兵衛(勘介(午前)/和馬(午後))、団七九郎兵衛(玉佳(午前)/玉助(午後))、釣船三婦(玉也(午前)/文司(午後))、三婦女房おつぎ(紋臣(午前)/簗一郎(午後))、三河屋義平次(玉助(午前)/勘十郎(午後))、徳兵衛女房お辰(勘彌(午前)/一輔(午後))、こっばの権(勘次郎(午前)/玉彦(午後))、なまの八(和馬(午前)/玉路(午後))。				
	6/13	釣船三婦の内の段(口 咲寿=寛太郎、奥 織=燕三)、長町裏の段(団七一小住・義平次一芳穂=藤蔵) ※Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止 ※「芳穂」の芳は異体字。	傾城琴浦(紋秀)、玉島磯之丞(簗太郎)、一寸徳兵衛(和馬)、団七九郎兵衛(玉助)、釣船三婦(文司)、三婦女房おつぎ(簗一郎)、三河屋義平次(勘十郎)、徳兵衛女房お辰(一輔)、こっばの権(玉彦)、なまの八(玉路)。			
二〇二一	令和3	7/16~8/3	国立文楽劇場	夏祭浪花鑑	住吉鳥居前の段(口 碩=錦吾、奥 睦=團七)、釣船三婦内の段(口 咲寿=寛太郎、奥 鑿=宗助)、長町裏の段(団七一織・義平次一三輪=藤蔵) ※夏休み文楽特別公演 ※「日本博」参画プロジェクト	傾城琴浦(紋臣)、玉島磯之丞(清五郎)、団七女房お梶(一輔)、一寸徳兵衛(玉佳)、大島佐賀右衛門(亀次)、団七九郎兵衛(玉男)、釣船三婦(玉也)、倅市松(勘昇(7/16~24)/玉征(7/25~8/3))、こっばの権(玉翔)、なまの八(玉誓)、番頭伝八(簗二郎)、娘お中(文昇)、道具屋孫右衛門(玉輝)、三河屋義平次(玉志)、徳兵衛女房お辰(清十郎)、仲買弥市(文哉)、三婦女房おつぎ(簗二郎(7/16~24)/勘彌(7/25~8/3))。